「鉄」が示す狗奴国は肥後

奥野正男

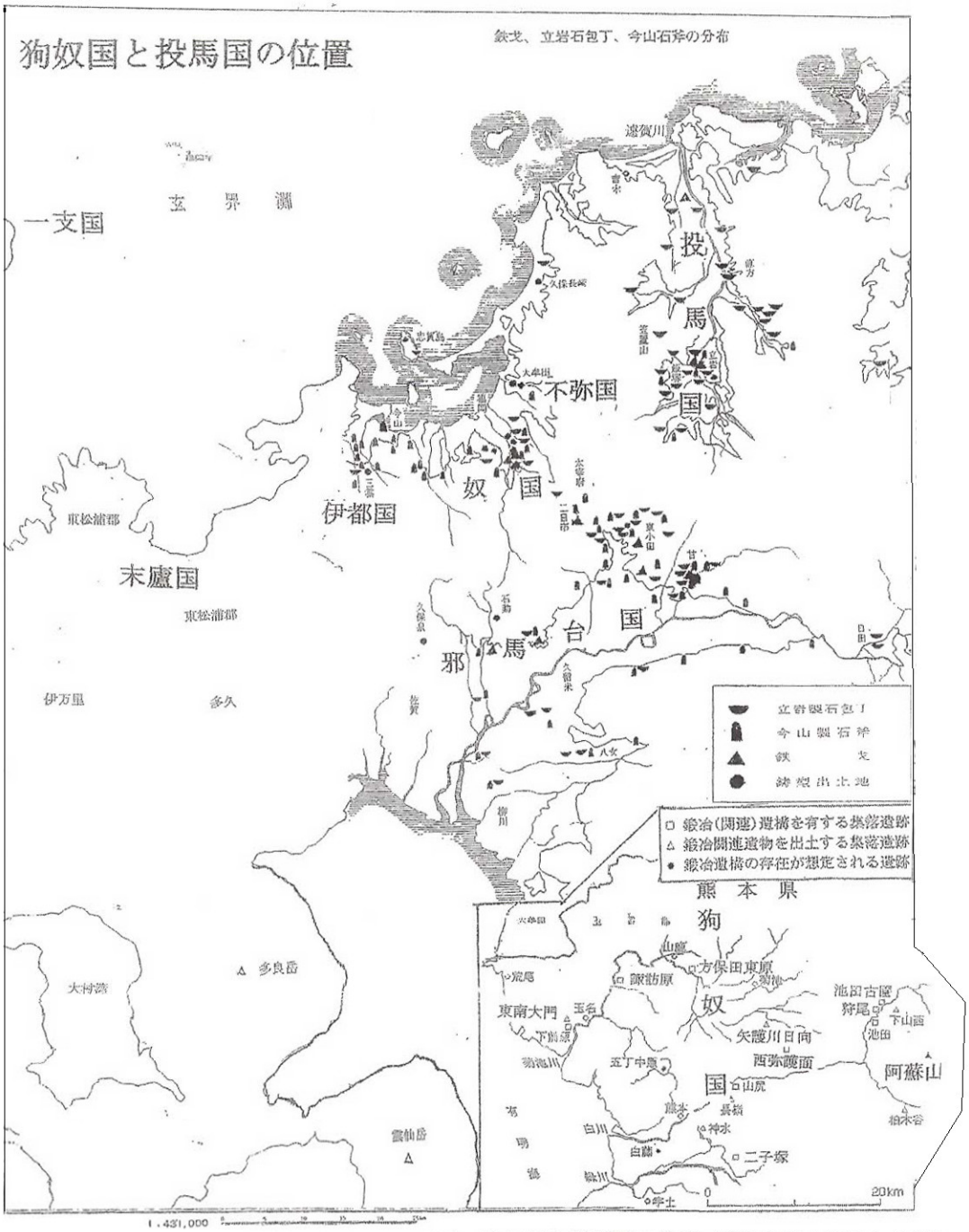


図1　狗奴国と投馬国の位置（『熊本県の歴史』参照）

古代史のハイライト「邪馬台国」に対する最大最強の敵国が「狗奴国」だったことは広く知られている。しかし文献上では、邪馬台国の「傍国」二十一国のあとに「これ女王国の境界の尽くるところ、その南に狗奴国あり」と記されているばかりで、その位置の比定に諸論がある。また、女王卑弥呼の死と、狗奴国との戦いには深い関係があるとする説も有力である。卑弥呼は狗奴国との戦いに敗れた責任を問われ、魏の皇帝からの遣使によって「死に追いやられた」とされるのである。古代の鉄器についての研究で高い評価を得ている奥野正男氏もその立場をとり、狗奴国の位置をのちの「火の国」一帯に比定する。今回の寄稿は、魏志倭人伝の方位と、弥生遺跡からの鉄器の出土を重ねて狗奴国など主要なクニの位置を比定するものである。（編集室）

狗奴国の位置（図1、図2）

もう三十年も前のことですが、最初に書いた邪馬台国の本で、私は弥生時代の鉄器の全国県別出土数をまとめ、邪馬台国と戦争した狗奴国の強さの秘密が鉄製武器の保有にあると書きました（注1）。

当時、熊本県で四〇点以上鉄器が出た弥生遺跡は、

①大津市西弥護面遺跡八九点

②山鹿市方保田東原遺跡五一点
③阿蘇町下山西遺跡四三点
の三遺跡で合計一八三点（注2）ありました。
ご の三遺跡だけでも鉄器出土数の全国順位は、福岡の一位に次いで熊本県が二位になります。
弥生終末期には菊池川流域を中心に鍛冶遺跡や環濠集落が増大し、
①山鹿市西弥護面遺跡五六七点
②阿蘇町狩尾湯ノ口遺跡三三九点
③阿蘇町池田・古園遺跡一六〇点
④山鹿市方保田東原遺跡一四一点
⑤阿蘇町下山西六三点

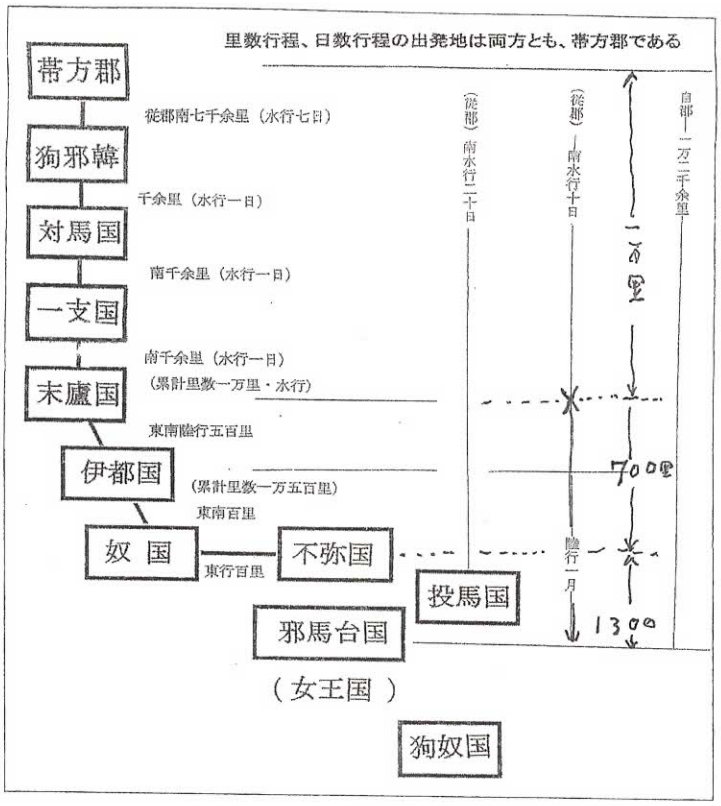


図2　邪馬台国への行程図
（奥野正男著『邪馬台国はここだ』梓書院刊より）

⑥上益城郡嘉島町二子塚三四点
と県下全域に広がっており、邪馬台国（九州北部）を凌駕する勢いです（注3）。
私は狗奴国を熊本県に比定してきたのですが、魏志には狗奴国に行く方位や里数・日数の記載がなく、ただ邪馬台国（女王国）の南の境界が尽きるところに狗奴国があると書いています。このため先に邪馬台国（女王国）の位置をきめることが必要なのです。

魏志倭人伝の構成（概要）

①倭人在帯方東南大海之中
帯方郡より不彌国まで（里数行程）
②従郡、循海岸水行、歴韓国乍南乍東、到其北岸狗邪韓國。七千餘里。始度一海千餘里、至對馬國。又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一支國。有三千許家。又渡一海千餘里、至末盧国。有四千餘戸、東南陸行五百里、到伊都国。有千餘戸。東南至奴国百里。有二萬餘戸。東行至不彌国百里。有千餘家。
帯方郡より投馬国・帯方郡より邪馬臺国まで（日数行程）
③南至投馬國、水行二十日。可五萬餘戸。南至耶馬臺國、女王之所都、水行十日、陸行一月。可七萬餘戸。
旁国と狗奴国
④自女王国以北、其戸数道里可得略載、其餘旁国遠絶、不可得詳。次有斯馬国…（以下旁国の国名列記）…次有奴国、此女王境界所盡。其南有狗奴国。男子為王、不属女王。
帯方郡より邪馬臺国まで（里数行程）
⑤自郡至女王国、萬二千餘里。

邪馬台国の位置と「従郡」「自郡」

②従郡…③南至投馬國、水行二十日。…南至耶馬臺國、女王之所都、水行十日、陸行一月。」
⑤「自郡至女王国、萬二千餘里。」
上記の日数と里数で書かれた邪馬台国・女王国への二つの行程の出発地が、両方とも「従郡」「自郡」（帯方郡から）と明記されています。従郡と自郡は同じように「～から」と読みますが、従と自の違いは、出発地の違いで使い分けていることを白川静の『字通』（注4）から知ることが出来ます。従郡は、不弥国までの里数行程が、前着地を次の出発地に

カコミ1　白川静『字通』より

説（愛知）に賛成（注5）しているそうです。

「里数行程、日数行程の出発地は、両方とも帯方郡である」（図1）という拙論には、最近、森浩一氏が『倭人伝を読みなおす』（ちくま新書）で「邪馬台国論争に重要な影響をあたえる」という評価をいただきました。

投馬国の位置（図1）

（従郡）「南至投馬国、水行二十日、官曰彌彌、副曰彌彌那利、可五萬余戸。南至邪馬壹国、女王之所、水行十日、陸行一月。（中略）可七萬余戸。」

投馬国を遠賀川流域に比定する根拠をあげます。

①帯方郡から舟で二十日で行ける位置にあります。

②投馬国の戸数「五万余は邪馬台国の七万戸に次ぐ第二位の戸数を擁する大国です。

③遠賀川の流域（四〇キロ）は，投馬国の「五万余戸」を入れるのに十分な稲作農耕地帯です。

④遠賀川流域には飯塚の笠置山産の輝緑凝灰岩で作った穂摘用具・石包丁の生産地の立岩遺跡があり、その石包丁を筑前地区にも拡げています。

⑤立岩には前漢鏡・青銅祭器・鉄製武器（鉄戈・鉄剣）を所有した弥生中期の王がいます。山の石材の採掘から石包丁製作など重要物産の製作・流通を支配した王であろう。

⑥城の越遺跡や立屋敷遺跡から出土して知られる遠賀川式土器（弥生前期末～中期初頭）の時期から稲作文化は、綾羅来遺跡（山口県）～出雲、瀬戸内海～伊勢湾まで広がります。

この遠賀川式土器を作った初期稲作民こそ、遠賀川流域を父祖の地とし、後代に物部氏を名乗った人々ではないかと思います。

するときの「～から」です。不弥国までは里数行程で、以後は日数行程に変わります。記述内容が里数から日数に変わるので、釈文では日数行程が改行され（岩波文庫『魏志倭人伝』でもそこから改行されています）、文頭の従郡が改行された日数行程を修飾し、投馬国と邪馬台国への出発地が「従郡」（帯方郡から）となるのです。

戦後の邪馬台国論争では多くの漢学・史学者が魏志の釈文を書きましたが、すべて内藤・白鳥の所説をなぞるだけでした。とくに大和説では内藤の〝南を東に書き変え、里数と日数を加えて大和にいたる〟（卑弥呼考）に従い、近年では考古学者のほとんどが狗奴国・尾張

注1：『邪馬台国はここだ』毎日新聞社一九八一年。奥野正男著作集第一巻（梓書院刊二〇一〇年に所収）
注2：奥野正男『鉄の古代史1―弥生時代』白水社一九九一年
注3：菊池秀夫『邪馬台国と狗奴国と鉄』彩流社二〇一〇年
注4：白川静『字通』（カコミ1）
注5：西谷正『魏志倭人伝の考古学』学生社二〇〇九年

おくの　まさお・筑紫古代文化研究会会長

図4　注１資料

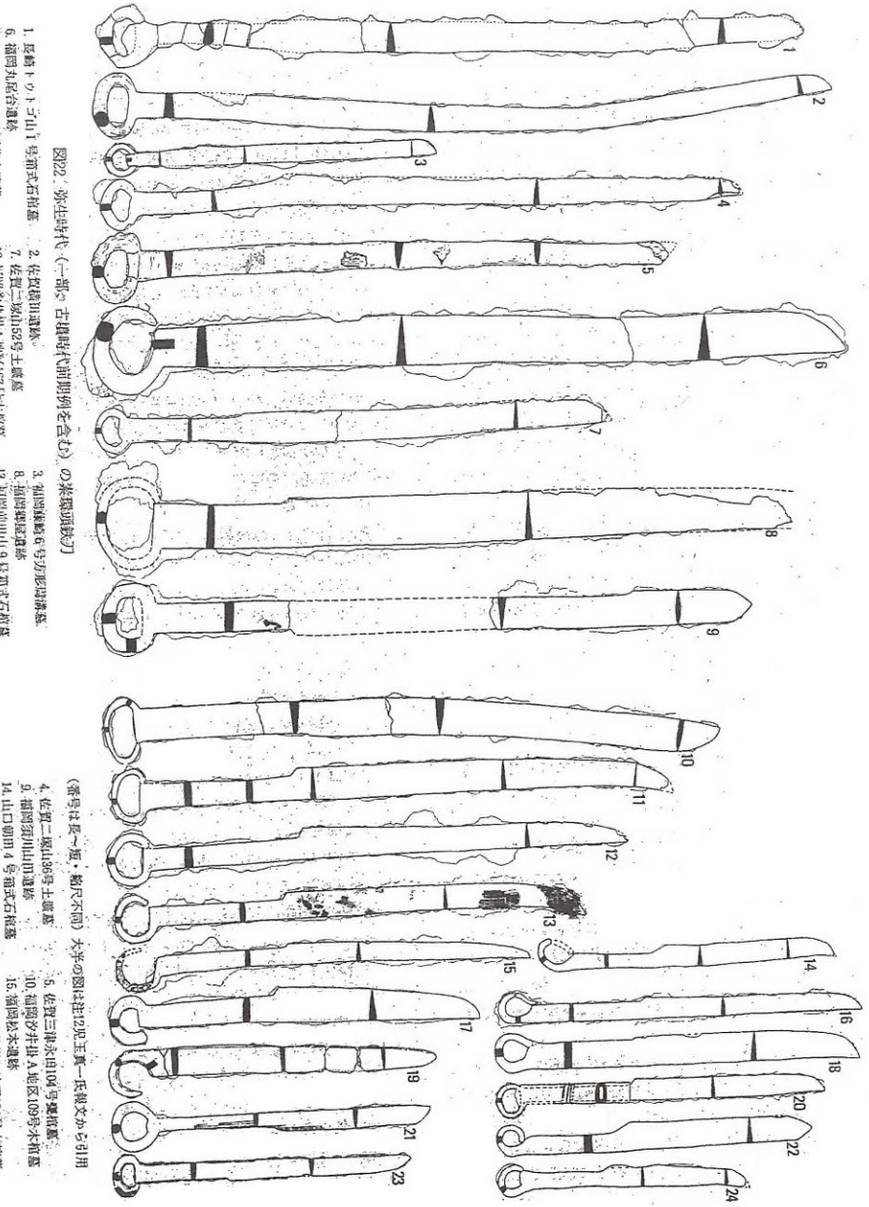


図22．弥生時代（一部の古墳時代前期例を含む）の素環頭鉄刀

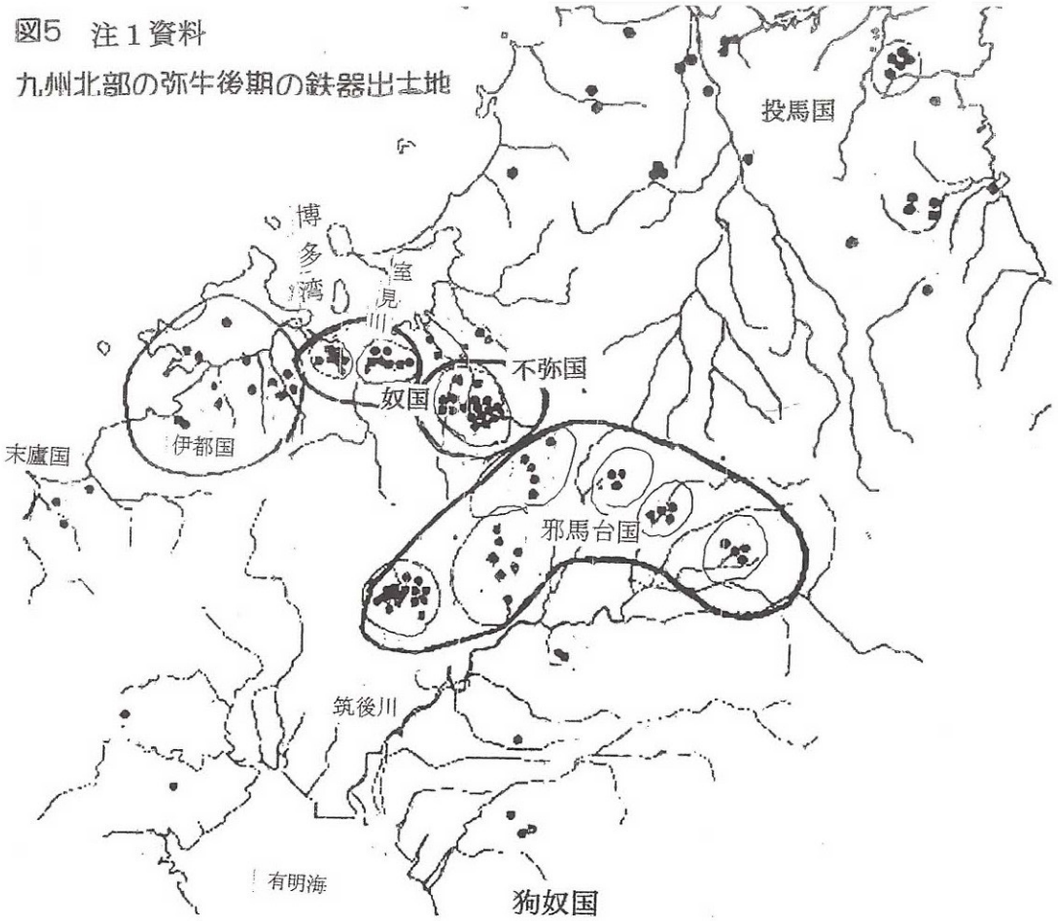
1. 長崎トウドゴ山1号箱式石棺墓　2. 佐賀横田遺跡　3. 福岡東郷6号方形周溝墓
6. 福岡丸尾台遺跡　7. 佐賀二塚山62号土壙墓　8. 福岡吉武遺跡
11. 福岡前田山5号石蓋土壙墓　12. 福岡岩井出A地区167号木棺墓　13. 福岡前田山19号箱式石棺墓
16. 福岡岩井出A地区189号木棺墓　17. 福岡上り立遺跡　18. 山口朝田13号箱式石棺墓
21. 福岡立岩28号甕棺墓　22. 山口朝田13号箱式石棺墓　23. 佐賀横岳山遺跡

（番号は長～短・縮尺不同）大半の図は注12)工藤一氏報文から引用
4. 佐賀二塚山36号土壙墓　5. 佐賀三津永田104号甕棺墓
9. 福岡須恵山山遺跡　10. 福岡岩井出A地区109号木棺墓
14. 山口朝田4号箱式石棺墓　15. 福岡松木遺跡
19. 福岡宝満尾13号石蓋土壙墓　20. 福岡岩井出A地区184号木棺墓
24. 山口朝田1号箱式石棺墓

前原市上町向原箱式石棺出土（５尺刀）

図5　注１資料

九州北部の弥生後期の鉄器出土地



弥生時代鉄器出土数

1981年『邪馬台国はここだ』より作成

注１資料

都道府県名	鉄刀	鉄剣	鉄矛	鉄戈	鉄鏃	工具・他	合計
福岡	22	38	9	15	80	211	375
佐賀	7	7	4	2	4	22	46
長崎	3	17	3	3	15	54	95
熊本	0	1	0	0	6	212	219
大分	0	2	0	0	20	88	110
宮崎	0	2	0	0	10	4	16
鹿児島	0	9	0	0	12	6	27
山口	1	0	0	0	5	13	19
島根	0	0	0	0	0	11	11
鳥取	0	0	0	0	4	1	5
広島	0	0	0	0	1	12	13
岡山	0	0	0	0	1	19	20
徳島	0	0	0	0	0	1	1
香川	0	1	0	0	0	40	41
愛媛	0	0	0	0	3	11	14
高知	0	0	0	0	2	1	3
大阪	0	0	0	0	19	14	33
和歌山	1	1	0	0	0	0	2
奈良	0	0	0	0	0	1	1
合計	34	78	16	20	182	721	1051